

令和2年7月豪雨にかかる 日本赤十字社の対応について



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 災害の概要

大雨特別警報の発令

令和2年7月4日（土）	熊本県、鹿児島県
令和2年7月6日（月）	福岡県、佐賀県、長崎県
令和2年7月8日（水）	岐阜県、長野県

※本災害により、以下9県に災害救助法が適用

山形県、長野県、岐阜県、島根県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、鹿児島県



熊本県人吉市



熊本県球磨郡球磨村

2. 被害状況

全国

死者 82人
行方不明者 4人
負傷者 29人
全壊 319棟
半壊 2,009棟
一部損壊 2,230棟
床上浸水 6,985棟
床下浸水 6,949棟

(令和2年8月24日15:00 現在
消防庁)



熊本県の被害状況

熊本県

死者 65人
行方不明者 2人
全壊 217棟
半壊 458棟
一部損壊 504棟
床上浸水 5,830棟
床下浸水 2,324棟
(令和2年8月24日15:00 現在
消防庁)

山鹿市
死者 2人

津奈木町
死者 3人

八代市
死者 4人
行方不明 1人

球磨村
死者 25人

人吉市
死者 20人

芦北町
死者 11人
行方不明 1人

3. 日本赤十字社の主な活動状況

職員・ボランティアの派遣



救護班

54班(297人)を派遣

※ 日本DMAT(20班)を含む



災害医療

コーディネートチーム

26班(医師37人)を派遣



支部支援要員

6人を派遣

※九州・沖縄地方の支部から
熊本県支部へ派遣



防災ボランティア

501人が活動

救援物資の配布



毛布

2,268枚



安眠セット

997セット



緊急セット

1,238セット



タオル類等

5,5651枚

(令和2年8月24日現在)

4. 救護班等の活動状況

(令和2年8月24日 現在)

派遣先	主な活動地域等	救護班 (日本DMAT含む)	日赤災害医療 コーディネート チーム	支部支援 要員
熊本県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本県庁 ・ 人吉市、水俣市、芦北町、相良村、山江村、あさぎり町、五木村、球磨村 	53班 (※)	25班	6名
佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐賀県支部 	-	1班	-
鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島県庁 	1班	-	-
計		54班	26班	6名

※九州・沖縄地方の支部から32班、中国・四国地方の支部から12班、その他の支部から9班を派遣



©Atsushi Shibuya/JRCS

熊本県人吉市内の避難所で活動する
福岡県支部救護班



熊本県人吉市内の救護所で活動する
熊本県支部救護班

救護班等の活動(広島県支部)

広島県支部救護班(広島赤十字・原爆病院)1班を派遣



避難所での巡回診療の様子



関係機関との情報共有の様子



活動報告の様子

5. 企業からの支援状況

【物品支援】

企業名	物品名	数量	送付先
スカパーJSAT(株)	可搬型VSAT [※]	1基	球磨村 災害対策本部
		1基	芦北地域振興局
ネスレ日本株式会社 [※]	ボトルコーヒー (900mlペットボトル 12本/箱)	3箱	福岡県支部
		20箱	熊本県支部
	キットカット (24袋/ケース 個包装約300個)	3ケース	福岡県支部
		20ケース	熊本県支部
サンデン・リテール システム(株)	手指消毒器及び消毒剤	5器・15本	福岡県支部
		85器・255本	熊本県支部
		10器・30本	大分県支部



ボトルコーヒー



手指消毒器

※VSAT：超小型の開口型アンテナをもち、通信衛星を介した通信を行うために設置された無線局

※ネスレ日本株式会社からの支援は、災害時における支援協力に関する協定書によるもの

【物品支援】

企業名	物品名	数量	送付先
(株)オンワード ホールディングス	布製マスク	5,000枚	熊本県支部
	軍手	5,000双	
(株)日赤サービス	半袖エアリージャケット	10着	熊本県支部



エアリージャケットを
着用して活動するボラン
ティア

【渡航・輸送支援】

企業名	支援内容	対象期間	対象者	利用実績
ANA ホールディングス(株)	被災地への職員等の 無償渡航及び救援物資の 無償輸送	7月8日(水) ～7月31日(金)	・日赤職員 ・救護活動に協力する 医療関係者	2路線 10名
(株)ソラシドエア	被災地への職員等の 無償渡航	7月23日(木) ～8月31日(月)	・日赤職員、ボランティア ・日赤業務の委託先企業 関係者	1路線 5名

6. 通信の確保

一部被災地にて通話回線、データ回線共に支障が発生し、救護班等の活動に影響が発生したため、被災地支部より支援要望あり。



本社救護課より、スカパーJSAT社へ支援を打診。熊本県内2地点（芦北町、球磨村）での移動式衛星電話設置の無償支援が実現。



芦北町での設置作業の様子



人吉市に設置された衛星電話

7. ボランティアの活動状況

延べ501名が活動（令和2年8月24日 現在）

活動場所	活動内容
被災地県支部	<ul style="list-style-type: none"> 被災状況等の情報収集 救援物資の積み込み及び搬送など タオル等の仕分け、パッキング ボランティア活動全般の調整
被災地域	<ul style="list-style-type: none"> 泥かき、家屋の片付け 社会福祉協議会災害ボランティアセンターでの運営支援（八代市、人吉市） ボランティアの健康管理など



熊本県支部で配送準備を行う
熊本県赤十字奉仕団員



熊本県支部で救援物資の積み込みを行う
日赤職員及び熊本県青年赤十字奉仕団員

8. 感染症に配慮した災害救護活動

(1) 新型コロナウイルス感染症の発生及びまん延状況下における災害救護活動

令和2年5月13日付救福救第138号及び第138号の2
救護・福祉部長通知により留意事項を通知

救護員の安全確保のための主な感染予防対策

- マスク等の個人用防護具の着用及び手指消毒の徹底
- 健康観察の実施（派遣中及び派遣終了後14日間）
- 3密（密閉空間、密集場所、密接場面）の防止
- 車両及び救護資機材の消毒

(2) 熊本県内における感染症対応について

【日赤の対応】

- ・留意事項に基づく救護の実施
 - 派遣前の体調の確認
 - 活動中のマスク着用、手洗いなどの手指衛生、人と人の距離の確保
 - 日常的な検温等の健康管理の徹底
- ・原則、被災県支部及び当該ブロック内の救護力で対応
- ・熊本赤十字病院感染対策チーム要員の派遣

【国の対応】

厚生労働省：DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）の派遣



マスク、グローブ着用で被災者の診療を行う熊本県支部救護班の医師



人吉市の避難所内の生活スペース

9. 義援金の受付状況

【災害義援金名】

「令和2年7月豪雨災害義援金」

【受付期間】

令和2年7月7日(火)～令和2年12月28日(月)

【本社受付件数及び金額】(令和2年8月23日 現在速報値)

受付件数：5万5,666件

受付金額：25億2,873万9,159円

※本社受付分のみを計上(支部受付分は含まない)

【受付支部】

山形県支部、長野県支部、岐阜県支部、福岡県支部、
熊本県支部、大分県支部、鹿児島県支部、佐賀県支部、
島根県支部

10.内閣府調査チームへの日本赤十字社職員の派遣

- ・「内閣府調査チームへの日本赤十字社職員派遣等に関する協定」（令和2年5月14日締結）に基づき、日本赤十字社職員が内閣府調査チームに初めて帯同。
- ・ 令和2年7月4日～8月9日 日赤医師及び支援員を派遣。



【協定の概要】

内閣府が災害発生時に被災地へ派遣する調査チームに日本赤十字社職員（医師等）を派遣し、同チームが被災地で実施する災害応急対応に協力する。

【派遣状況：令和2年8月24日 現在】

医師 延べ5名

支援員 延べ5名

人吉市内の避難所にて武田防災担当大臣の視察に
随行する日赤職員

11. 関係機関への日赤連絡調整員の派遣

派遣先 関係機関	日付	派遣人数	活動内容
内閣府	令和2年7月4日	1名	内閣府内や現地内閣府調査チームとの調整及び動向等の情報収集を実施
厚生労働省 DMAT 事務局	令和2年7月5日	2名	DMAT事務局との調整及び動向等の情報収集を実施
	令和2年7月8日	1名	



内閣府にて情報収集を行う日赤連絡調整員



DMAT事務局にて情報収集を行う日赤連絡調整員